

2018年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

Anna Escoda Solé (スペイン、バルセロナ)

バルセロナ市の代表として青少年「平和と交流」支援事業 (HIROSHIMA and PEACE) のプログラムに参加できたことを光栄に思います。様々な国から来た人たちについて知り、このプログラムに参加した人たちの文化に強く根差した物の見方を知ることができました。

HIROSHIMA and PEACE のプログラムでは、様々なバックグラウンドを持つ学生たちが、20 世紀に起きた悲劇的な原子爆弾投下について、特にヒロシマの原爆投下に焦点を合わせ、歴史的な見方から現在の問題にいたるまで、戦争や平和について議論しました。

さらに、HIROSHIMA and PEACE のプログラムで話し合ったいくつかの視点を取り上げることも大事です。このプログラムは、私にとって平和とは何か、また、異なる状況における平和とは何なのかについて理解する突破口となりました。まず、「原発と現代性：社会的観点からみる福島の実例から」（講師：湯浅正恵氏）というテーマでは、日本社会に与えた福島第一原子力発電所の事故の影響について学びました。核による大惨事が世界中で依然として起きる理由について考え、日本の核エネルギー政策についても学びました。さらに、「韓国人被爆者をめぐるナラティブー石牟礼道子から韓水山へ」（講師：松永京子氏）というテーマでは、第2次世界大戦中、またその後の日本における社会的な差別について話し合いました。「核がもたらす新しい世界」（講師：ロバート・ジェイコブズ氏）というテーマでは、そうした関連する視点を持ち続けると共に、現在及び未来に関連する視点も取り入れました。核エネルギーに依存し、未来をないがしろにして、歴史的な過ちを繰り返しているという認識を持つ現在のライフスタイルや、核廃棄物のない世界について考える必要性、この核廃棄物を将来的にどう管理していくかについて話し合いました。さらに、NGO である ANT-Hiroshima と彼らによる復興と平和構築プログラムの活動を例として取り上げた、「悲劇を新しい明日にかえる：広島市民による草の根平和運動」（講師：渡部朋子氏）の講義では、地域及び国際的なコミュニティと共に、平和の精神を広めるための新しい活動やキャンペーンに参加する、あるいは作りだすための励ましやアイデア、手段を得ました。

このプログラムの最後に参加者が共通して最も重要だと考えたポイントの一つは、私たちが当初持っていた平和についての認識でした。その時、この2週間で私たちがどれほど多くのことを学んだかに気づいたのです。平和という概念について、最後に確かな根拠を持つ十分な論証を練り上げることができました。

受講したすべての講義を通して、私たちは戦争と平和の本質と特質、平和構築の重要性、現在のグローバルな時代に平和構築をいかに実行するかについて、深く理解することができました。

また一方で、今回学んだことと以前からの知識に基づいて私がしようと計画しているのは、青少年「平和と交流」支援事業（HIROSHIMA and PEACE）のプログラムで得た経験を、私の学校や仕事の場で話すことです。次に、このプログラムに参加した仲間たちとこれからも連絡を取り合うことです。彼らとはそれぞれが自分のまちで実行しているプロジェクトや経験及び成功事例を共有しました。また、私たちの活動がさらに影響力を持つために、実現されたプロジェクトや活動を共有し、核なき世界を目指して共に働くことで、共通の相乗効果が生まれるようにしたいと思います。さらに、バルセロナ市と共に Barcelona Cooperation for Global Justice Master Plan 2018 - 2021 を通じて、平和首長会議のような国際関係・協力の分野において関連する役割や経験を持つ組織を巻き込みながら、発展、連帯、人権、平和のための公共政策を強化し推進する活動や行動を、国際的にまた地域においても開始する機会があります。そこで、この目的のもと、10月には「平和のまちバルセロナ」（2018年から2019年の講座）という学生を対象とした24回目のパブリック・ヒアリングを始めます。そこでは、11歳から17歳の学生たちがバルセロナ市及び各地区の議員に提案を行います。このプロセスを通して、教師たちもまた、このプログラムの目的を掘り下げて理解するために必要なトレーニングと支援を受けます。「平和のまちバルセロナ」パブリック・ヒアリングの主なテーマは、特に、平和とは何であるかということを理解し、平和についてじっくり考え、活動についての提言を作り、自治権、論理的な考え、尊敬、市民参加を発展させることです。

核兵器廃絶のために、私が平和首長会議に対してできる具体的な提案は、平和首長会議の加盟都市間の絆を強くすること、活動のインパクトを最大限にすると共にグローバルなものにするために、相乗作用や活動を作り出すこと、そして昔からの加盟都市との連絡を復活させることです。さらに、加盟都市を通じて、市民社会の様々な組織に平和首長会議に加盟するよう提案したり、近隣の地方自治体や姉妹都市に加盟を働き掛けたりするのも良い考えだと思います。

結論として、私は青少年「平和と交流」支援事業（HIROSHIMA and PEACE）に参加できて良かったとお伝えしたいと思います。このプログラムへの参加はとても貴重な経験でした。世界中から来た様々な考え方を持つ人たちと出会い、人は皆、考え方や信念、また、状況に対応する方法が文化的背景によってそれぞれ異なることを知ることが出来ました。

Anna Escoda